



サーバス九州

日本サーバス九州支部会報 No. 185

2019年8月28日

九州支部長 T.M

お盆を過ぎても蒸し暑い日が続いていましたが、ちょっと暑さも和らぎつつあります。会員の皆さまはいかがお過ごしですか？北部九州ではここ2・3日降り続く雨に、土砂災害や浸水など、今後とも猛烈な雨も予想されます。皆さまに被害が無い事を祈るばかりです。

先日、以前九州支部で発行された会報を見せて頂くチャンスがありました。1995年から2005年までの発行でB5版の会報です。ページをめくりますと、今も活動されている方、退会された方、もうお亡くなりになった方のお名前を見つけ感慨深いものがありました。冊子の会報ですと、メールでお送りするのは違い、後から続きを読んだり、戻ったりとちょっと親しみを感じて読んでいただけるとは思いました。

当時はまだ個人情報の取り扱いが厳しくなく、会員さん全員の名前や、住所、電話番号が載っていました。その日に丁度他県の会員さんが我が家に泊まっていたので、一緒に拝見しました。会報の中に、その方が入会して間もなく投稿された文章を見つけ、大変懐かしく読まれていました。形は変わりましたが、その時々支部長さんが発行し、引き継がれてきた会報を大切に、次にバトンタッチをしていきたいと思いました。

サーバス九州支部会報 185号（2019年8月号）をお届けします。

掲載している内容は以下の通りです。

- | | |
|------------------------|--------------|
| 1. モンゴルでの東アジア会議に参加して | 4. 支部会員情報 |
| 2. サーバス旅行レポート | 5. 支部からのお願い |
| 3. 「この指とまれ」の報告と交流のおすすめ | 6. 支部連絡先（常掲） |

1.モンゴルでの東アジア会議に参加して

モンゴル

佐賀県会員 S. S

サインバノ！こんにちは！

日本に帰ってからはしばらくはこの言葉が頭の中で繰り返されました。

広い大地と爽やかな風、犬の遠吠え、鳥の羽ばたき、馬の鼻息、時折埃っぽい砂漠の風、草原の中のハーブの香り、コッテリした肉の脂の匂い、今でも私の五感に焼き付いています。

今、現実に戻り、本当にあの場所は夢ではなかったろうかと思えます。

私達日本人メンバーは7月半ばより3日間に亘りモンゴル、韓国、台湾、日本のメンバーによる東アジアサーバス会議をモンゴルで行いました。テレルジのレッドロック、ゲルに泊まり、交流会では自己紹介、各国の出し物、ダンス、フッショショ、ゲーム、ハイキングなどを楽しみました。モンゴルのサーバスメンバーがフルに食事の準備、企画などを行って下さいました。

モンゴルと言えばチンギスハンやフビライハンと言った有名な人物の名前を聞いたことがあり、また日本にも大きな影響があったということは知っていましたが、今回モンゴルで知ったのはこれまでのモンゴル大帝の時代を経て、厳しい歴史や宗教、またロシアの影響が大きかったこと、数十年前までチンギスハンという言葉がモンゴル人が口に出して言えなかったという事でした。



後半は九州メンバーでリトルゴビそして、かつてのモンゴル帝国の首都カラコルムに行きました。カラコルムではラマ教(チベット仏教)のエルデネ・ゾー寺院、朝青龍が開発中のリゾート地、朝ランド(Asa Land Resort)を訪れ、途中乗馬、乗ラクダ、を経験しました。食事に関しては馬乳酒や馬のミルク、またホーシュと言いうラム肉を詰めた餃子のようなもの、とにかく肉、肉、肉。どうして肉を残すの? 食べないの? と何度も聞かれては「申し訳

ないなあ」と思いながら、泣く泣く残してしまいました。

また人生初めてのトイレ経験、道路の傍らに板で目隠しをしていますが、反対から見ると丸見え。下に落ちたら大変という経験をさせていただきました。この経験は後にも先にも無いことを願っています。郊外のゲルの隣には車やソーラーシステムがあり、人々はそれでテレビを見たり、携帯の充電をされていました。また、馬ではなくバイクで羊や山羊を追う姿や、観光客が放置したとみられるゴミの山。大自然の草原や砂漠との間にギャップがあることを感じました。

準備企画をして下さった多くのサーバスメンバーの方々また子供さん、モンゴルのHさん、後半案内をして下さったHさん、運転手さん、多くの方々に感謝です。

バイルッチャ! ありがとう!

東アジア会議に参加して (2019年7月14日~7月21日)

福岡県会員 T.Y

モンゴルで開かれた東アジア会議に日本サーバスより9名の会員が参加し、私たち九州サーバスからは6名が参加しました。7月14日福岡を16:30に発ち韓国インチョン経由でモンゴルウランバートルに21:30に着きました。空港にはモンゴルの会長Hさんが迎えに来て下さっていました。Hさんとは今年に入ってからモンゴル訪問について何度もメールでやり取りをしていましたので随分前からのお知り合いのような感じでした。空港から宿泊施設のKhuvsqul Lake Hostelまでお迎えの車で1時間以上かかり到着。そこには何度かMeetingなどで顔を合わせた韓国の方たちがすでに到着されていて、久しぶりの再会を喜びました。

次の日は2時間ばかりバスに揺られ、大きな岩が並ぶ景色が特徴的なテレルジ国立公園レッドロックに行きました。そこで大きなゲルでミーティングをして、参加国のモンゴル、韓国、台湾、日本の代表が自分の国のサー



バスの実情を語り、参加者全員が自己紹介しました。夜はダイナミックなモンゴルバーベキューを楽しみ、色々な方と交流しました。続いて、各国の伝統衣装の披露やファッションショー、踊りなどで盛り上がり、日本チームは法被でカスタネットや鳴子を持ち「諫早のんこの節」を踊り、拍手喝さいを受けました。その夜は初めてのゲル体験でした。3人部屋で同じ国の人同士にならないように割り当ててありました。ゲルは宿泊用になっているので思ったより快適に過ごせました。

次の日16日は午前中代表の方たちが **Meeting** をしている間、希望者は大自然の中、乗馬をしたり散策をしたりして過ごしました。お肉たっぷりの昼食をいただき、テレルジを後にしてウランバートルに戻りました。ウランバートルでは **Traditional Folk Concert** に行き素晴らしいモンゴルの伝統芸能を見ました。草原のチェロと言われる二弦からなる馬頭琴、モンゴル独特の歌唱法であり、緊張した喉から発せられる笛のような声のホーミー、豪華な民族衣装での歌、踊りを堪能した1時間半でした。

ウランバートル最後の日17日は、国立歴史博物館、モンゴル最大級のチベット仏教寺院であるガンダン寺を訪れました。ガンダン寺は1727年に建てられて以来歴史の中で封鎖されたり、破壊された事が度々あったそうです。中には高さ25mの観音菩薩像、マニ車（チベット仏教の仏具で表面にはマントラが刻まれており、中にはお経が書かれた紙が入っていて、それを回すとお経を唱えた事と同じだけの徳がある）参拝客が端からくるくる回しながら歩いていました。

この日の夜は子どもたちも参加し、お別れの夕食会が開かれました。皆が思い思いに歌ったり、挨拶をしたりし、私たちは皆で「幸せなら手をたたこう」を歌い、全員が手をたたいたり、足踏みをしたりして参加してくれました。

翌日18日は九州メンバーだけで2泊3日のツアーに出かけました。最初の1日目はウランバートルから280k西に行った little Gobi（本当のゴビ砂漠はそこからまた南に400kも行くのだそうです）でラクダ乗りや砂漠を体験し、2日目はかつてのモンゴル帝国の首都カラコルムへ（現在はハラホリンと呼ばれる）。モンゴル最古のエルデネ・ゾー寺院、博物館などを見学しました。



モンゴルは果てしなく広がる大草原に遊牧民が暮らし、世界一人口密度の低い国と言われていますが、首都ウランバートルには人口の半数近くが集まり、多くのビルも立ち並ぶ交通渋滞の多い都会でした。（国土は日本の4倍で人口は約305万人）大草原の中に道路が1本延々と続き勿論信号はなく、遠くにゲルがぽつんと見えます。一つのゲルにお邪魔をしました。馬のミルク絞りをを見せていただいたり、味見させていただいたりしました。（思ったより甘かった）ゲルの外には発電のための太陽光パネル、衛星放送を受信するパラボラアンテナなどが設置されていました。これで何も無い大草原でもテレビや携帯電話が利用でき、モンゴルでは携帯電話の普及率は100%を超えているそうです。

今度の旅ではいろいろモンゴルの事を知る事が出来ました。モンゴル会長のHさん初め会員さんにはお食事の準備や案内、送り迎えなどで大変お世話になりました。私たちの2泊3日の旅も優しい運転手さん、そして日本語で説明して下さったもう一人のHさんのお陰で忘れられない旅となりました。私の憧れだった大草原に身を置いた1週間でした。また貴重なこの旅が私の思い出のページに加わりました。H会長、そしてご参加の皆さまいろいろお世話になりました。心よりお礼申し上げます。

2. サーバス旅行レポート

中欧の旅で学んだ事

長崎県会員 A.A

昨年ポーランド、ワルシャワのサーバストラベラー（国際サーバス開発チームリーダー）、Eが韓国での国際ミーティングの後、Oさんと長崎に来られて、Eは我が家に一泊しました。クリスマスにメールを下さって、そのことがきっかけで中欧を調べると全く危なくないとの事で、一人旅の計画を立てました。初めてのヨーロッパ旅行です。

5月27日にブダペストに到着し、空港からホスト宅まではミニバスで行き2泊する。列車でウィーンに行き、ホスト宅に2泊、シャトルバスでチェスキークルムロフのホテルまで。ホテルには1泊。バスでプラハへ。ホスト宅に2泊。バスでザコパネに行き、ホテルに1泊、またバスでクラコフへ。ホスト宅に2泊、列車でワルシャワに行き、Eの所に2泊して6月8日に発ち9日に日本に帰りました。駆け足旅行でした。ブダペストに到着した日は荷物が届かないで、次の日の夜ホストの家に届きました。が、こんな事もあるかと1日分の着替えなどはバックパックに入れていたので大丈夫でした。



ブダペスト：国会議事堂



ウィーン：シェーンブルン宮殿

日本では多分皆様、駅か空港までお迎えに行かれると思いますが、こちらではホストの家まで自分で行くのが普通のように、ホストから駅からは何行き of 電車に乗ってとかバスに乗ってとかメトロに乗って、何処何処で降りて、そこから何々に乗って何処何処で降りてと言うメールが来ました。そして、それを見ながら各ホストの家に行きました。Eは駅のプラットフォームまで来ていただきました。

あと困った事が、電車代やバス代の払い方でした。国によって少し違いましたが、どこでも停留所か乗り物の中でチケットを買って、そのチケットのバーコードを乗り物の中の機械で読み取って、それが払ったと言う事の証となります。ただ殆どは停留所で買うので、知らないで乗ってしまうと無銭乗車となってしまう。時々係の人が乗ってきて、チェックするそうで、その時チケットに払ったとの印刷がないとかなりのお金を払わされると聞きました。私はそういう人を一度も見ませんでした。日本に帰ってからのたまたまブダペストに行ったことがある友人からバスに乗った時、どうして良いか分からずにいたら、係りの人が乗ってきて、問答無用でお金を一人に付き4000円ほど払わされたと聞きました。団体旅行でみんな払わされたそうです。



チェスキークルムロフ

中欧のホストはみんな、アパートに住んでいて、食事もとても質素でした。お肉は殆ど食べませんでした。チーズの種類は多く、パンとチーズ、薄いハムを出されることが多かったです。スパゲッティも何度か食べましたが、お肉は入っていないくて、チーズをかけたり、野菜がチョット入っていた

りでした。ヨーロッパにベジタリアンやヴィーガンが多いのがわかるような気がしました。



プラハ：ティーン教会

ビックリしたことは、入れ墨を入れている人がとても多いと言う事です。街中に何軒も刺青屋さんを見ました。一種のファッションになっているようです。煙草を吸う人も多かったです。

もう一つビックリしたことは、本当に安全と言う事です。まあ、地元の人よりも観光客が多かったこともあるかと思いますが、危険を感じたことは一度もありませんでしたし、また、スリの気配も全く感じませんでした。

ホテルのデスクは、夜は閉まっていますが、遅く着く場合は外の鍵のかかった箱に合鍵とルームキーが置いてあり、その箱のパスナンバーをメールで教えてくれて、自分で開けて入って

お部屋に行くようになっていました。チェスキークルムロフは朝も誰もなくて、階段はとても狭く、少々大変でした。後で若い女性がお掃除されていて、この方がわからない事は教えてくれましたが、英語は殆ど通じませんでした。ザコパネも夜はデスクが閉まっていたのですが、連絡は取れましたし、次の朝9時から英語がわかるスタッフが常駐していて、観光のアドバイスをして下さり、とても助かりました。ここはお部屋も朝食も素晴らしかったです。いつも [booking.com](https://www.booking.com) で予約します。ロコミはよく読まないといけないなと思いました。



ザコパネ



クラコフ：中央広場



ヴィエリチカ岩塩坑



アウシュヴィッツ

ホストの方々はみんな良くして下さいました。お仕事があるので、夜に色々教えて下さり、殆ど一人でブラブラしましたが、自分のペースで行きたい所に行けたのでそれはそれで良かったと思います。



ワルシャワ：王宮広場

一ヶ所一か所の時間が限られていたのですが、自分のペースで行動することができました。私の旅行の仕方は危なくなければ、夕方に移動して、朝昼は観光に使います。中欧は夜9時前まで明るかったので行動しやすかったです。ワルシャワのEにその時その時の状況を報告しながらずっと旅行しました。そして、最後の場所でEに会えてとても嬉しかったです。またEの紹介で4月にワルシャワから二人長崎に来られましたが、その二人にも今回再会出来ました。

憧れのヨーロッパ旅行第1歩、本当に充実していて、思い出深い旅行となりました。今回旅行前とても忙しく、勉強する時間がありませんでしたが、出来れば旅行前にその国の歴史、簡単な国家のあり方を勉強して行ったらもっと会話も弾み、ホストも喜んでくれたらと思います。

3.「この指とまれ」の報告と交流のおすすめ

久住に行きたい人「この指とまれ」で6月16日から17日に大分久住高原に行ってきました。7名参加。お天気にも恵まれ久住の大自然にふれた2日でした。

○「この指と～まれ」の提案

4月の支部会議の合間や懇親会の中で「気軽にどこかに行きたいけど、なかなかチャンスがないよね。誰か計画してくれないかなー」という声が出ていました。それで、「行きたい人この指と～まれ」で気楽に交流できる場があってもいいのではないかと思って、支部長から思いつきの提案をします。

一人で行くにはちょっと躊躇するけど、どなたかご一緒される方があれば行ってみたいなー・・・と思われたら会員の皆さんにお声かけしてみられたらいかがでしょうか？

「この指と～まれ」のお誘いの声を発していただければ、支部長から会員さんにお寄せいただいたメールを送信します。興味を抱かれた方が「反応」していただければいいのです。会員はどなたでも「この指と～まれ」を発信していただいて結構です。支部活動ではありませんので、報告やレポートもいりません。

内容は指にとまった方々で話し合ってお決め下さい。たとえば、「奄美大島に行ってみたいな～」「屋久島にご一緒しませんか？」「由布岳登ってみたい～」「久住に行ってみたいな～」「夜神楽みたい～」「鉄道ローカル線の旅をしてみたいよね」「対馬に行ってみない？」「直島美術館ってすごいらしいよ、行かない？」等々。気楽に交流を楽しみませんか！

4.支部会員情報

支部会員数	44	家族	福岡県	12名	佐賀県	5名	長崎県	7名	熊本県	5名
			大分県	11名	宮崎県	3名	鹿児島県	1名		
休	会	4	名							

5.支部からのお願い

(1) レポートについて

サーバス旅行や、トラベラーの受け入れをされた場合はその時の写真やレポート（簡単なコメントでも結構です）をお送りくださるようお願いいたします。会報に掲載させていただきます。

(2) トラベラー受け入れ報告

トラベラーを受け入れた場合はその都度日本サーバスのホームページ上の「トラベラー受け入れ報告」より入力ご報告ください。入力報告の内容は自動的にメールでご自分の元に届きます。皆さま

まのご協力により、去年報告をされた方はほぼ全員ホームページ上での報告でした。今後ともよろしくお願ひ致します。

6. 支部連絡先（常掲）

発行日：2019年8月28日（185号）

発行者：サーバス九州支部長

T. Y

【会費、認定料等の送金は以下にお願いします】

- 郵便口座をお持ちでしたらその口座からサーバス九州事務局の郵便口座へは送金手数料無料で振り込みできます。

記号：17240 番号：17160361

名称：サーバス九州事務局

- 銀行から振り込む場合 送金手数料は有料です。
店名：七二八（ナナニハチ）
店番：728 種類：普通
番号：1716036（有料）（これには末尾1不要）

- ◎ 会計担当：H. S